

A. 主な動き

1. 内政

▼大統領選出に向けた動き

・16日、憲法裁判所は、大統領選出に関する憲法第78条解釈請求の審議を9月20日に実施することを決定。

・17日、フォルムザル・ガガウズ自治共和国首長は、フィラト首相(自由民主党)が次期大統領に相応しい旨発言。これに対し、18日、プラホドニク議会議長(民主党)は、ガガウズ自治共和国首長は同問題に干渉すべきでない旨非難。A EIの大統領候補はルブ議会議長(民主党)一名のみである旨発言。一方、フィラト首相は、A EIの大統領候補が一名のみであるという状況が大統領選出を困難にしている旨反論、大統領は今秋に選出されるべきである旨発言。

・19日、自由民主党は、自由民主党と共産党の連立に向けたフィラト首相とヴォローニン共産党党首との秘密会談が実施された旨の報道を否定、同報道に関わったとされる民主党を非難する声明を発表。これに対し、同日、民主党は、同非難は根拠の無いものと反論する声明を発表。

▼その他

・17日、フィラト首相は、裁判官の労働条件改善等を骨子とした司法機構再編案を作成するようエフリム法相に指示。

2. 経済

・16日、国家統計局は、6月の平均給与は昨年同月比20%上昇の3,556.2レイ(約312米ドル)と発表。

・19日、経済省は、都市と農村部における生活格差は拡大しているものの、2010年度の貧困レベルはそれ以前と比較して改善し、絶対貧困層は2009年比4.4%減の21.9%、極貧層は同0.7%減の1.4%である旨発表。

3. 外政

・18日、バセスク・ルーマニア大統領は、モルドバはEUにとっての優先事項ではなく、EUの優先事項が経済危機と発展の展望にある旨発言、A EIが2度目に政権を獲得したことで、EUはモルドバに開かれてはいるものの、政治家が大統領選出に2度も失敗し、重要な政治的決定を下せないことは(EU内部では)否定的に評価されている旨指摘。

・18日、バセスク・ルーマニア大統領は、ルーマニア政府の資金援助により印刷された教科書『ルーマニア人の歴史』45万部をモルドバ政府はもはや必要としていない旨指摘、ルーマニアはこのことに腹を立てたりはしないが、覚えておこうと発言。これに対し、19日、フィラト首相は、バセスク・ルーマニア大統領がモルドバ情勢について熟知していない旨コメント、ルーマニア人の歴史を学ぶ必要はあるが、教科書の表題に(ルーマニアという)国の名称を含めるべきではない旨の立場を強調。

・18日、モルドバ外務・欧州統合省は、在外公館における独立記念日レセプション実施のための予算を計上しない旨発表。

4. 沿ドニエストル

・16日、スパイ容疑で懲役14年の罪に問われているカザク氏は、スミルノフ「大統領」宛の恩赦請願を提出。

・17日、グバレフ露外務省沿ドニエストル紛争交渉担当特使は、ティラスポリを訪問しヤストレブチャク「外相」等と会談、9月にモスクワにて開催が予定されている「5+2」協議の準備状況につき意見交換。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。

(了)